

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371100849
法人名	株式会社エヌエス
事業所名	グループホーム なごみの里
訪問調査日	平成20年3月6日
評価確定日	平成20年4月10日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2371100849
法人名	株式会社エヌエス
事業所名	グループホーム なごみの里
所在地	名古屋市港区東蟹田1001番地 (電話) 052-309-3219

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	平成20年4月10日

【情報提供票より】(平成20年2月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年3月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	24 人 常勤 7人, 非常勤 17人, 常勤換算 4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,800 円	その他の経費(月額)	28,200 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(120,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年2月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	9名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	95 歳
協力医療機関名	クリニック サンセール				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2階建てのホームは静かな環境の中、広々とした敷地に佇み隣にはデイサービスセンターも併設されている。庭には四季折々を感じられるよう季節の樹木が植えられている。来訪者にも手洗いとうがいの励行にて衛生面にも配慮している。比較的自立度が高い入居者が多く一人ひとりができることをして過ごし、入居者同士が労わりあっている姿が見られた。施設長、職員はホーム全体が皆家族のようという思いを大切に、その人らしく笑顔のある楽しい暮らしが築けるよう日々関わっている。また、地域に溶け込んで声をかけてもらったり、近隣の他グループホームとは心強い関係となっている。野菜はオーナーの自宅の畑で作り、入居者も時々手伝い収穫し、新鮮な野菜を毎日いただける。今後はターミナルについての必要性を検討し、地域の中でその人らしく暮らし続けられることを課題としている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>入居者、家族と共に介護計画を作成することについては、現在本人や家族に説明をして承諾を得るようになった。本人の意向についても一人ひとりの思いに添って記載するようになった。また、継続的な研修の受講は定期的に全職員が参加できるよう計画し質向上に努め周知方法も確実にできている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の記入については難しい箇所もあったが業務の合間をぬって皆頑張った。施設長からは各自記入後、自己評価についての補足説明を行った。改善する点などにも気づくことができ、全職員、他ホームとも話し合える機会がもてよい勉強になった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>町内会長、民生児童委員、老人会長、施設長、職員、他グループホームのメンバーで構成し、時々入居者家族、町内会副会長の参加もある。以前は入居者にも参加していただいていた。毎回地域の報告を受け、近況の行事、家族会、外部評価などの報告を行っている。改善点については検討をしてアドバイスなど受けられた。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>年1度、外部評価後に家族会を開催している。施設長も同席し、外部評価の報告も行っている。その場で意見、提案があった場合には要望に添えるよう対応している。また、玄関に意見箱が設置してあり自由に意見、苦情が伝えられる。家族会以外では夏祭り、クリスマス会、訪問時などで家族同士がふれあい、情報の共有や意見交換などの機会がある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域と様々な交流の機会をもち、日課である毎朝の散歩時には挨拶を交わし、野菜や季節の花、メダカなどを頂いたりしている。町内会に加入し回覧板を回し夏祭りの案内をするなどホームの存在を知ってもらっている。こども110番の受託、介護相談受付の看板を外に掲げるなど地域住民との関わりを大切にしている。近隣の方は、時々食事を一緒に摂り話しをするなど気軽に訪ねてきている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オーナーが地元出身であることや入居者でもある家族も地元住民として暮らしていたことから理念の一部である「地域に根ざした」という点に地域密着型サービスとしての重要性を認識し、その人らしく暮らし続けることを支えていけるよう努め理念をつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、各フロアリビングに掲げられている。施設長は常に一人ひとりの本意に添って笑顔のある関わりができるように伝えている。また、スタッフ会議の折にも話し合う機会を設けている。職員もよく理解し理念の意味を大切に日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域と様々な交流の機会をもち、日課である毎朝の散歩時には挨拶を交わし、野菜、季節の花、メダカなどを頂いたりもしている。町内会に加入し回覧板を回し夏祭りの案内をするなどホームの存在を知ってもらっている。こども110番の受託、介護相談受付の看板を外に掲げるなど地域住民との関わりを大切にしている。近隣の方は、時々食事を一緒に摂り話しをするなど気軽に訪ねてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員で理解できたと共に他グループホームと悩んでいたことを話し合える機会がもて士気の向上に繋がられた。家族会においても結果を報告して改善点についてはスタッフ会議で話し合い検討をし、実践に結び付けられた。全職員が自己評価にも前向きに取り組めサービスの質向上に活かした。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>町内会長、民生児童委員、老人会長、施設長、職員、他グループホームのメンバーで構成し、時々入居者家族、町内会副会長たちの参加もある。以前は入居者にも参加していただいていた。毎回地域の報告を受け、近況や行事、家族会、外部評価などの報告を行っている。改善点については検討をしてアドバイスなど受けられた。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>定期的に市担当者とは行き来する機会はないが、相談したい時などは積極的に連絡をして尋ね、いつでも柔軟な対応が受けられサービスの質向上に繋げている。また、プライバシーの件と担当窓口の繁忙を懸念し躊躇することもあったが今後はさらに連携を深めていくことを検討している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「なごみ便り」を発行し、写真やエピソードも添え、一人ひとりの近況報告を行っている。家族の訪問も定期的にあるのでその時にも報告などできている。緊急的な要件については随時電話連絡を行っている。金銭管理についてはできる人は買い物時に自分で使用していただき、家族から預かっている金銭の使用にあたっては半年に1度、明細報告を行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1度、外部評価後に家族会を開催している。施設長も同席し、外部評価の報告も行っている。その場で意見、提案があった場合には要望に添えるよう対応している。また、玄関に意見箱が設置してあり自由に意見、苦情が伝えられる。家族会以外では夏祭り、クリスマス会、訪問時などで家族同士がふれあい、情報の共有や意見交換などの機会がある。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職について各職員が個別に伝えている可能性はあるが、施設長側からは特に伝えておらず今のところダメージはみられていない。全職員が2ユニットの入居者に日頃から声をかけていき馴染めるよう努めている。引き継ぎは日勤勤務時に直接実地指導している。また、施設長と職員との個人面談を半年に1度試み、できるだけ馴染んだ関係でケアが継続できるよう取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修についてはグループホーム協議会、他ホームの研修会、合同で救命講習の受講や有志の勉強会などに常勤、非常勤ともに参加できている。他の研修においても随時現場に支障がなければ参加し報告書を作成している。内部研修は多彩な外部研修をもとに内容を確認、展開し、参加できなかった職員にも周知できている。救命講習については忘れてしまわないよう反復して港区の講習に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区介護保険事業者連絡会、グループホーム協議会、名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（名介研）、近隣のグループホームの運営推進会議メンバーなどに参画している。その場限りではなく各場で得た情報や疑問点などを職員に伝え毎日のケアに活かしている。特に近隣のホームとの交流は良好で夏祭りに呼ばれたり、分からないことなどを相談してサービスの質向上に繋げている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に1度は足を運んでいただきたいため緊急性を要しない限りは見学をし納得されて入居に至っている。空き居室があれば体験入居も可能である。最近是在宅から緊急入居が多いがその後、安心して馴染めるよう日々関わり混乱は無い。以前の経験で病院からの受け入れは認知度の程度、医療的な問題などから難しく今後の課題としている。家族同様のホームで本人が納得して馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者として敬う気持ちを大切にしつつ家族同様に過ごせることを大切にしている。畑仕事、裁縫、料理、生花など教えてもらい双方が支えあっている。訪問時、入居者から「ありがとう」という言葉がよく聞かれ、また、入居者同士もお互いに労わりあっていた。職員は家族のように入居者を思い、喜怒哀楽を共にし支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の関わりの中で一人ひとりの思いを把握したり会話の中から汲み取り、できる限り個々の思いに添えるよう努めている。入居時には家族から生活歴を聞き参考にもしている。意向の把握が困難な場合や課題が生じた時にはセンター方式を取り入れているので一定期間、24時間シートにまとめスタッフ会議で検討し把握に努めている。また、日々の生活で新しく気づいたことや変化があったことなどをノートに記し全職員で共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者には各担当職員が決まっている。介護計画は、計画作成担当者と担当職員が中心となり、フロア会議で他の職員の意見を取り入れながら作成している。入居者、家族の意見も介護計画に反映できるよう心がけているが、積極的な希望、意見は出ないようである。</p>		<p>入居者を一番に考えたケアを実践されているが、言葉少ない本人や家族の思いを汲み取る努力をし、個別性を活かした介護計画を作成されることを期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月1回のフロア会議で、入居者全員の介護計画の見直しを行っている。変化や必要のあるときは、すぐに新しい計画を作り直している。新たな要望や変化が見られないときでも3カ月～6カ月で現状に即した新しい計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を受けている。非常勤の看護師がおり、提携医療機関とは24時間連絡可能な体制である。歯医者への往診も必要に応じて行っている。隣接のデイサービスセンターにあるお風呂も時々利用できる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医など希望の医療機関への受診は可能である。基本的に受診は家族にお願いしているが、家族の状況、かかる病院によってはホームが受診の付き添いを行うことも可能である。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームには、縁があって入居された入居者なので、最後までしっかり見ていきたいという方針がある。ホームの体制や考え方については文章化しており、入居時に説明し本人や家族と確認、合意を行っている。まだ対象者はいないが、医療との連携など課題は多く、研修などに参加しながら勉強しており、ホーム全体で体制づくりを行っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者に安心してもらえるよう、その人に合わせて親しみを込めた話し方をしているが、“親しき仲にも礼儀あり”と入居者の自尊心を傷つけるような話し方、対応は決してしない。これについては、会議などにおいて、いつも注意するように話し合っている。個人情報についてもカルテの取り扱いなど慎重に行っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームには、おおまかな1日の流れはあるが、入居者は起床、就寝時間を始め、それぞれ自分のペースで生活している。ホームは家庭なので時間で縛らないという考え方である。喫煙・飲酒については禁止しているがトラブルはない。おやつは病気などが無い限り、自由に食べてもよいことになっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃より食べたい物を聞いたり、観察しながらなるべく喜んでいただけるメニューを作っている。入居者の調理参加率はとてよく、野菜切りやすし飯作りなど、皆で仲良く分担して調理を行っている。健康のために夕食より昼食に重点を置いている。月に1回、外食の日がある。アンケートを取り、好きな物を食べに行く。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後の1時半から4時半ぐらいの間で行われている。毎日入浴している人も多い。入浴を拒否される方については、タイミングに合わせて、時間に関係なく入りたい時に入ってもらっている。3カ月に1度、温泉が運ばれている。今は白鳥の温泉で、美肌効果があると好評で入居者は楽しみにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物の得意な方にはズボンの裾まつりや雑巾作りをお願いしたり、花の好きな方には生けることをお願いしたり、それぞれの得意なことを見つけ出し、その方にあった役割をつくっている。オーナーの畑が解放されており、畑に季節の野菜を植えたり、手入れ、収穫も入居者の楽しみとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回の外食、週1回の喫茶店や買物ツアーへの参加、毎日の散歩、月初めの神社のお参り、春と秋の遠足、日常品の買物の付き添いなど外出の機会が多い。今後は入居者に個人の希望を聞き、孫やペットに会いに行きたいなど、個人の思い出になるような個別支援の外出を計画している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、フロアとも鍵をかけずに対応し、夜間は安全のため施錠している。家庭なので努力して鍵をかけないですむなら努力したいという考え方で、入居者の特性を理解し常に見守りに注意を払っている。また、地域の見守りや近くのグループホームとの連携など安心した環境もつくっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。そのうち1回は消防署の指導も受けている。備蓄品は水を準備している。すぐ近くのオーナー宅にお米などが備蓄されており、炊き出しができる準備がある。普通救急救命講習は職員皆が積極的に参加している。忘れないようにと何度も参加している職員も多い。他のグループホームと合同で普通救急救命講習を行っている。		施設長が地域の避難訓練に参加しているが、ホームとして、地域と協力体制を持った訓練を行うことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取はチェックしており、必要に応じて、本人の嗜好などを考え調整している。カロリーについてはなるべく抑え目にするように考え、畑で取れた季節の野菜を中心に、食材の油抜きなどを心がけて作っている。栄養に関しては、入居者の家族の栄養士にときどきアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの庭には、ハナミズキ、金木犀、サルノコシカケなどの樹木が植えてあり、プランターの草花も多く、花を見て四季を感じて欲しいと工夫されている。玄関には地域の方から頂いた大きな梅の木が生けられており、目ばかりでなく香りでも季節を感じることができる。満開の桜などの入居者が共同で作った大きな貼り絵の作品が多く飾られていた。リビングは日当たりが良く、皆ソファなどに座りゆっくりされている姿が見られた。広めのデッキも設置されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具などを用意してもらうよう説明をしている。大きな仏壇があり、毎朝お参りするのが日課の方や、家具や趣味の物を効率よく配置し、過ごしやすい部屋を作っている方など個性的な部屋が多い。各部屋には換気扇が付いており、ベッドはレンタルもできる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。